

# 鹿大教職組ニュース

Tel. 099-285-7285, Fax:099-285-7286 e-mail. ka-kumiai@leaf.ocn.ne.jp

|  |   |
|--|---|
| 学習会開催のお知らせ                             | 1 |
| 団体交渉要求書を提出                             | 1 |
| 全大教第28回教職員研究集会 in 宇都宮大学に参加して(ハフリーズ・日吉) | 2 |

## 学習会開催のお知らせ

### テーマ「障害のある学生への修学支援について」

どなたでもご参加いただけます！

日時：2016年12月1日(木) 18時～19時10分

場所：農・獣医共通棟 1階 104 講義室

内容：18時～18時45分 「障害のある学生への修学支援について」  
今村 智佳子 先生（臨床心理士、障害学生支援センター特任助教）

18時45分～19時 事例報告「水産学部における聴覚障害学生の支援について」  
山本 淳 先生（水産学部教授、教職員組合）

19時～19時10分 総合討論

身体や心に障害を抱える学生さんが皆さんの身近にもいらっしゃるのではないのでしょうか。そのような方にどのように接したらよいか、よい方向に導くためには、どう配慮したらよいかなど疑問も多いと思います。今回の学習会はそのような日頃の疑問に対するアドバイスを障害学生支援センターの今村先生からご教授いただき、水産学部での事例報告を山本先生からお話いただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

主催：鹿児島大学教職員組合 共催：鹿児島大学教職員組合農学部・獣医学部支部


※問い合わせ先：学習会担当(simogiri@agri.kagoshima-u.ac.jp)まで

## 団体交渉要求書を提出

2016年度第1回目団体交渉にむけて、11月15日付けで人事課へ要求書を手渡しました。

人件費や人事に関する情報開示の要求や、以前から引き続き技術職員の昇任・昇格に関わる待遇改善、防衛省の技術推進制度に関して鹿児島大学の姿勢など、16項目にわたって回答を要求しております。

詳しくは次号の組合ニュースにて掲載いたします。また、提出した文書は“組合ホームページ(<http://ka-kumiai.jp/>)”にてご覧いただけます。



## 全大教第 28 回教職員研究集会 in 宇都宮大学に参加して

今回栃木県宇都宮大学で 9 月 9～11 日の間に行われた全大教第 28 回教職員研究集会に参加してきた。初めて全大教宿院組合の大きな行事に参加する事で緊張感もあったが、行ってみたら意外と親しい雰囲気集まりであって、全国の大学の教職組合員の代表者達が参加していて、現在大学等が教育、組織改革、経済的および運営などでどのような課題を抱えているなどについて議論が行われた。

開会式は 9 月 9 日の昼過ぎに行い、全大教中央執行委員長(中富公一先生)の挨拶に続き宇都宮大学の学長挨拶で教研集会が始まり、早稲田大学人間科学学術院教授の橋本健二先生より「新しい階級社会の出現と高等教育の課題」というテーマで記念講演が行われ、全大教に関する報告があった。その後および 10 日も計画されていた分科会が行われ、私が A2 分科会の「特色ある教育実践の構築とその運営体制の維持に関する課題」に参加し、当分科会に参加された教

職員および技術員および事務系の方々からそれぞれの大学にどのような教育体制が有るか、また教育および運営や改革などでどのような課題を抱えているかについて説明が行われた、明るい話もあったが、様々な課題を抱えている事のほうが多いと実感した。私は理学部で学生の育成のため行われている「インテンシブ理数教育特別プログラム」および「実践的コア・サイエンスティチャー養成スクール」の内容や現状について説明をし、参加者から驚きの感想をもらった。自分の所属大学や学部でも同様なプログラムがあれば良いなど聞いた。

今回全大教第 28 回教職員研究集会に参加して本当に良い経験となった。自分の大学のアピールにもなるし、他の大学の現状及び活動内容を聞く良い機会になると思うので、時間に余裕が有る組合員に是非参加をお勧めしたい。

(ハフィーズ・ウルレーマン/理学部)



9 月に宇都宮大学を会場として行われた全大教第 28 回教職員研究集会に参加させて頂いた。教研集会全体については、全大教新聞 10 月 10 日号に詳しく載っているので、ぜひお目通し頂ければと思う。

開会式や記念講演については、ハフィーズ先生が報告で触れておられるので、私は自分が出席した二つの分科会について報告させて頂く。

9 日(金)から 10 日(土)午前にかけて A 5 分科会「教員養成系大学・学部問題」、午後から 11 日(日)にかけて B 7 分科会「附属学校」に参加した。

「教員養成系大学・学部問題」分科会では、学部改革や教職大学院の現状について、大阪教育大学の事例報告をもとに、活発な情報交換が行われた。多くは前途多難を予想させる内容で、矢継ぎ早で且つ場当たりの改革が教員の不安や疲弊を招いていることが強く感じられた。また教員採用への積極的な対応とその効果についても金沢大学の事例報告をもとに、活発な意見交換が行われ、大いに参考になった。いずれの問題についても、本学教育学部も待たなしの状況に置かれているので、貴重な事例を数多く聞くことができ、参加できて本当によかつ



たと思った。

「附属学校」分科会では、名古屋大学教育学部、奈良教育大学、神戸大学のそれぞれの附属校から事例報告が行われた。報告内容が、教育内容から職員の労働条件、通常学級における特別支援教育、日の丸・君が代問題と多様であり、活発な意見交換が行われた。私自身が神奈川県で附属中学校の教員であったこともあり、また現在も本学附属学校に指導助言等に関わることも多々あるため、他人事でなく参加でき、多くのことを考えさせられた。また今回の分科会には、附属学校の教職員だけでなく、私を含めて多くの大学教員が参加しており、附属の外からの質問や意見が交わされ、附属学校のあり方について多様な見方にふれたことは、とても新鮮だった。

改革、改組、新設といった嵐に立ち向かわざるを得ない現状の中、全国で多くの教職員が学生や児童生徒のことを第一に考え、少しでもよりよい教育と研究を、と頑張られているエネルギーをたくさん浴びることができた。3 日間どっぷりと集会に浸かったのでたいへん疲れたが、心に元気をいただき、たいへん有意義な勉強の機会となった。

(日吉 武 書記次長/教育学部)

